

## こまやかな神経

山崎富治

大平さんが現職の総理大臣のまま急逝されたショックは、歴史的な大事件として永久に消えない。そして人間大平正芳としての全人格的な遺徳も、いつまでも私の脳裏から決して去り行くことはないだろう。

その一。昭和五十二年四月二十一日アジア開銀総会での大蔵大臣招待の朝食会で、大平さんは「日本の大臣として私は外国ではとても評判が良いのだよ。日本のワンダフルな発展と安定政治に対して各国から賞讃されてうれいんだ。ところが、日本に帰ったら羽田から直行で国会によび出されて、あれこれ、とつちめられるのはかなわんねえ……。とにかく国内ではお天気の責任まで背負わされそつだ。田圃まさに蕪れなんとす、という心境だね」と、あの人なつこい笑顔で本音を吐かれた。金融証券界の一同は誰もが人間大平さんの一面を垣間見て、その共感を大きな拍手でこたえたのであった。しかし、代表的政治家としての頭の転換、気分一新の束の間を、外国出張のタイミングに合わせるという大平さんならではの神業は、かなりの神経と体力をすり減らす一つの原因となっていたのかもしれない。

その二。昭和五十一年の七月二十八日、朝早く大平家を訪問したことがある。森田一秘書官が気持よく玄關のドアを開けて二階の応接室に通して下さった。早々に浴衣姿にくつろいだ大平さんが「やあやあ、お父さんはどうかね」と病気の父の容態をすぐにたずねて下さった。これは数カ月たってから、志げ子夫人を遣わされて熱海の来ノ宮山荘にまでお見舞いをして下さるといふ、繊細な神経の持主であられる一面を実によく表わしている

と思う。」とこので国債はなかなか苦勞しているようだね。どうしたらもう少し評判よくなるかなあ。」

早速に私は個人に投資魅力をもたせるためには税金面の優遇、さらに発行の多様化が絶対に必要なこと、十年物の長期債一本やりでなく五年、三年の中期債、とくに当面は割引国債を考えていただきたい等々、ついに一時間近くもお話を申し上げたことがある。大きな聞く耳をもつ大平さんは一つ一つの確につかみながら、実に率直に、「よし、大蔵当局に早速に検討させよう」とはっきり確約された。一つの結論を出すのにとても長い時間をかける、といわれてきた大平さんの決断の一面を、一橋の後輩として、さらに証券マンとして直接に確かめることができた、こんなチャンスはめつたにない、一生忘れることのできない一日だった。翌五十二年一月発行の約一千億円の第一回割国は大人気で、買物殺到となったのはいうまでもない。

その三。志げ子夫人のお父上は、三木証券の創業者鈴木三樹之助さんであったが、戦前から五十年の歴史をもつ米穀市場出身の証券社長父子の懇親会「みのる会」を大変に愛し、とくに一泊旅行会を楽しみにされていた。

十年ほど以前からお忙しい大平さんにもご縁をつなぐ意味をもってご招待することになったところが、ゴルフにも箱根の旅行にも時々参加して下さった。いつもリラックスされて、宴会には流行歌をご披露されるほどの人間性を発揮された。もちろん、お得意の「夜霧の第二国道」の渋い声には、それこそ人気が沸騰アンコールが続いたのであった。ところで大平さんがどうしてあの歌を気に入ったのだろうか。「闇をみつめて」ハンドル切ればサインボードの 灯りも暗い 泣かぬつもり 男の胸を 濡らす夜霧の ああ第二国道」。第三歌詞のなかの「闇をみつめて」が政界のウラにヒッターとくるものがあつたにちがいない。

病床の記者会見でもみせられたあの浴衣姿のくつろぎに人間大平さんの偉大さと、こまやかな神経と個性の豊かさを、今さらのように思い出しては眼頭の熱くなる今日この頃である。

(山種証券社長)